

平成28年度

学校自己評価表（報告）

【午前部】

学校運営計画			
学校運営方針	<p>目標と自信を持ち、これからの人生に意欲的に立ち向かっていく生徒を育成する。</p> <p>全職員が組織的に連携して多様な生徒に対応し、基礎学力の定着や進路実現を図るとともに、健康で個性豊かな人間性に満ちた生徒を育成する。</p>		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
<p>1 成果</p> <p>生徒一人ひとりに対して、担任を中心に各分掌とも密接な連携をとりながら、きめ細かな組織的な取り組みを行った結果、学習指導、進路指導等に前進と改善が見られた。（昨年比）</p> <p>①中途退学率 2.5 ポイント増</p> <p>②進路 大・短大、就職、その他のポイント増</p> <p>・進学率（大・短大） 2.2 ポイント増（国公立2名合格）</p> <p>・専門学校 5.5 ポイント減</p> <p>・就職率 1.1 ポイント増</p> <p>・その他卒業生（アルバイト等） 3.3 ポイント増（増加傾向）</p> <p>③生徒指導件数 5件増（1件に関わる人数増）</p> <p>2 課題</p> <p>①中途退学率の減少に向け、引き続き努力する。</p> <p>②多様な生徒に対する丁寧かつ組織的な指導体制の確立。</p> <p>③教育相談や特別支援教育の指導体制を確立し、不登校・休学・いじめ・自殺等の問題を学校挙げて取り組む。</p> <p>④キャリア教育の実践的指導力を高めていく。</p>	学	<p>1 単位制を有効に機能させ、生徒の自己管理能力を高めるとともに、自ら学ぶ意欲を持たせる。</p> <p>2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進し生徒の理解力を高める。</p>	<p>単位の履修率及び修得率を高める。</p> <p>授業公開や教科内での教授法について検討会を実施する。</p>
	生	<p>3 規範意識、公共心を涵養し、全ての生徒が安全、安心に学校生活を送れるようにする。</p> <p>4 教育相談を中心に据えた生徒指導体制を充実することにより、生徒の基本的な生活習慣を確立する。</p>	<p>具体的な指導項目を機会ある毎に生徒に示し、全職員でその指導に当たることにより、問題行動発生を未然に防ぐ。</p> <p>校内研修を学期ごとに開催し、生徒指導の実践的指導力の向上を図る。</p>
	徒	<p>5 休学者及び長期欠席者の復学や登校への意識を高める。</p>	<p>休学者、長期欠席者への家庭訪問や対応状況について情報共有をするとともに事例検討を行う。</p>
	指	<p>6 進路学習に早期から取り組むことにより、生徒の進路意識の高揚を図り、適切な職業観を醸成し、進路希望を実現する。</p>	<p>希望する就職及び進学の実現を図る（就職達成率及び進学達成率ともに100%を目指す）。</p>
	導		
	進		
路			
指			
導			

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
単位制の有効的機能と学ぶ意欲の高揚 自己管理能力の向上 授業のユニバーサルデザイン化	学習意欲や基礎学力を高め、単位履修率、修得率の向上を図る。	年間3回・17日間の履修指導を行い、計画通りの単位修得の意識向上を促す。(教務)	A	A	
		年間6回の出欠報告会を実施。成績表・イエローカードの配付により、計画通りの履修・修得・卒業条件のクリアを目標に、出席率の向上を図る。(教務)	A		
		HRや個人面談を通して、授業への出席・教室移動・着席などの基本的な学習姿勢を早期に身につけさせる。(1年次)	B		
		生徒の履修状況を把握し、計画的に単位を修得させる指導を行い、卒業に向けての意識を高める。(2年次)	A		
		生徒の履修・修得状況を把握し、計画通りに単位を修得させる指導を行う。また、授業への出席状況などの家庭連絡を密に行う。(3年次)	A		
		履修・修得状況を十分把握し、家庭との連携を密にしながらい計画通りに単位修得を実現する。(4年次)	A		
	授業公開や教科内での教授法について検討会を実施する。	オープンスクールなどを利用し、授業の広範な公開を行うことにより、充実した授業研修を行う。(単位制)	A	A	
		生徒による授業評価を実施し、授業の改善について研究する。(単位制)	A		
		ユニバーサルデザインの観点からの授業技術の向上を目指し、生徒の実態調査や授業の工夫について情報共有を行う。(特別支援教育)	A		
	教育相談を中心に据えた生徒指導体制の充実	家庭や外部機関と連携し、中途退学者の減少、休学者・長期欠席者の復学率・登校率を高める。	「地域の声を聞く会」の広報活動を積極的に行い、多数の出席者を期待し、情報交換を密にして、生徒への指導に役立てる。(渉外)	A	A
			単位制高校活性化相談員と連携し、相談活動を充実させる。(教育相談)	A	
			総合学習の一環として、1, 2年次対象に人間関係学習を実施し、講演や活動を通して、生徒のより良い人間関係構築を図る。(教育相談)	A	
校内での情報共有をはかり、事例検討に努める。		スクールカウンセラーによるカウンセリングやコンサルテーションを生徒の支援に生かす。(教育相談)	A		
		夏季休業中に、ワークショップを実施し、活動を通して自己理解や他者理解を促す。(教育相談)	A		
		休学者及び長期欠席者に対し、個々の状況に応じて連絡を密に取り、生徒の状況把握に努める。(1年次)	A		
		休学者・長欠者を減少させるべく、各家庭や外部支援機関等と連絡・連携を密にとる。(2年次)	A		

		休学者・長欠者の生活状況把握に努め、家庭や外部支援機関等と連携し、個に応じた支援を行う。(3年次)	A		A
		休学者・長期欠席者に対しては、家庭・外部機関との連携により、生活状況を把握し生徒に応じた支援をおこなう。(4年次)	A		
	校内研修を学期ごとに開催し、生徒指導の実践的指導力の向上を図る。	年次ごとの人権学習の実践と取り組み内容の確認。(同和教育)	A	A	A
		研修会の職員への参加要請と参加計画の作成。(同和教育)	A		
		教育相談のための資質向上を図るため、職員の研修を行う。(教育相談)	A		
規範意識、公共心の涵養 安全・安心な学校づくり	基本的な生活習慣の確立を進め、学校生活の充実を図る。	自転車での交通事故防止。(生徒指導)	B	A	A
		不審者による被害防止。(生徒指導)	A		
		校内巡視の強化。(生徒指導)	A		
進路意識の高揚 適切な職業観の醸成	進路実現のための適切な進路指導の充実を図る。	「総合学習」としての進路学習(進路ガイダンス、進路見学、講演会、模擬授業等)により、早期から具体的な進路意識の育成を図る。(進路指導)	A	A	A
		進路行事・個別支援等により、卒業年次における進路未定者を減らす。(進路指導)	A		
		外部支援機関(職安・予備校等)との連携により、卒業年次について、進路希望の実現を図る。(進路指導)	A		
		科目選択、個別面談などの活動を通して自己の適性の理解と進路意識の啓発に努めさせる。(1年次)	A		
		LHRや個別面談を通じ、規範意識の育成を図るとともに、進路実現のための努力を促す。(2年次)	A		
		進路指導部・関係機関との連携により、早期の進路決定、進路実現を図る。(3年次)	A		
		進路指導部と十分に連携し、進路希望実現のために有効な指導をおこなう。(4年次)	A		
		LHR・面談等を通じて、卒業後につながる自律的な学校生活が送れるように指導していく。(4年次)	A		
成 果	生徒一人ひとりに対して、担任だけでなく年次団や各分掌が様々な場面で連携しながら組織的取り組みを行うことで、国公立大学合格、就職達成率増加という成果を収めることができた。	総合評価			
		A			